

幼稚園教育

幼児一人一人の健全な心身の基礎を培う幼稚園教育

発達の各時期にふさわしい生活の展開に向けた指導計画の改善・充実

- 教育課程編成においては、幼児期の発達の特性を踏まえながら、発達の各時期にふさわしい生活が展開されるよう、具体的なねらいと内容を組織する。
- 指導計画の作成に当たっては、教育課程の反省や評価を適切に行い、それぞれの時期にふさわしい育ちや必要な体験などを具体的に押さえていくことが大切である。

幼児理解に基づく計画的な環境の構成と遊びを中心とした総合的な指導の充実

- 幼稚園教育は環境を通して行うことが基本であることを踏まえ、環境の中に教育的価値を含ませながら、幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、試行錯誤を経て、環境へのふさわしいかかわり方を身に付けていく教育を進めることが大切である。
- 環境を通して計画的な指導を行うためには、発達の見通しや幼児一人一人の行動の理解と予想に基づいた環境の構成と教師の援助が重要である。
- 幼児にとって、教師は重要な環境であることを踏まえ、幼児との温かい人間関係を育てながら、様々な役割を果たすことができるよう専門性を向上させる必要がある。

家庭や地域社会等との連携を生かした特色ある幼稚園づくりの推進

- 子育て支援のために幼稚園の施設や機能を地域に開いたり、預かり保育を進めたりする場合は、幼児の心身の負担に配慮しながら、職員間の共通理解の下、指導体制を整備して行うことが大切である。
- 家庭や地域社会等との連携を図り、幼児が豊かな生活体験を得られるよう工夫するとともに、互いに子育ての意義を共有しながら、望ましい発達を促していく必要がある。
- 幼児期の教育の成果を小学校につなげていくことが求められていることから、保育所、認定こども園等との連携も踏まえつつ、幼稚園教育が小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、小学校教育との円滑な接続を目指した交流や情報交換等、具体的な取組を進めていくことが重要である。
- 幼稚園における学校評価の結果などを適切に生かしながら「特色ある幼稚園づくり」に努めていくことが大切である。
- 日頃から様々な機会をとらえて安全に関する理解を深めるよう指導するとともに、地域の特性や実態に応じて幼児や施設等の安全確保に努めていく必要がある。

主体的な活動としての遊びを通して、幼児の健全な自立を促し、望ましい発達を助長する。

指 導 の 重 点	努 力 事 項
<p>1 幼児が環境に主体的にかかわり、発達の時期にふさわしい生活が展開できるように、長期的・短期的に見通しをもった指導計画を作成・改善する。</p>	<p>(1) 園の実態や一人一人の幼児の発達の実情を踏まえ、入園から修了に至るまでの長期的な見通しをもった特色ある指導計画を作成するとともに、短期的な計画との往還を意識して改善を図る。 (2) 家庭、地域社会、小学校、保育所、認定こども園と連携し、協力し合いながら生活及び発達や学びの連続性を踏まえた教育ができるよう指導計画を工夫する。 (3) 小学校との接続の観点から、近隣の小学校低学年等との交流活動や生活科等との関連を図った遊びを計画するとともに、小学校作成のスタートカリキュラムの編成に積極的にかかわっていく。</p>
<p>2 一人一人の活動の場面に応じて、教師が様々な役割を果たし、幼児の主体的な活動が確保されるような保育の展開に努める。</p>	<p>(1) 幼児の姿から、幼児の興味・関心や心の動きを理解し、発達に必要な多様な体験を積み重ねていくことができるよう、具体的な環境を考えたり援助したりする。 (2) 教師が人的環境として重要な役割を果たしていることを認識し、教師自身の環境へのかかわり方を工夫する。 (3) 集団の生活を通して、幼児が他者とのかかわりを深め、協同して遊んだり、葛藤やつまずきを経験したりする中で、自分の気持ちを調整しながら、共通の目的を実現する喜びを味わったり、規範意識や道徳性の芽生えを培ったりできるようにする。</p>
<p>3 幼児の育ちつつある面やよさに目を向けた評価を行う。</p>	<p>(4) 障がいのある幼児の指導に当たっては、教職員の共通理解の下特別支援学校などの助言や援助を活用したり関係機関との連携を図ったりしながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画等を作成するなどして、発達を具体的に捉えられるようにする。 (1) 一人一人の幼児の活動を見取り、その意味を理解するように努めるとともに、環境の再構成や次の手だてに生かすようにする。 (2) 指導事例を基にした教師相互の意見交換などを通して、多面的・継続的に一人一人のよさや発達を捉える目を確かなものにし、保育を充実させる。</p>

幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた指導のポイント

ポイント1 発達や学びの連続性を踏まえた指導の充実を図る。

- 幼稚園と小学校との教育内容や指導の在り方等について共通理解を図り実践につなげる。
(授業・保育参観、研究協議等の教師間交流、学習指導要領や幼稚園教育要領の理解等)
- 幼稚園教育の成果(育つことが期待されている「生きる力」の基礎となる心情、意欲、態度などの育ち)を小学校につなげていくために、**発達や学びの連続性を意識したカリキュラムを編成・改善するなどして、指導を充実させる。**

<特に重視する事項>

- ◇ 協同する経験の積み重ねによる人間関係や調整力の育ち
- ◇ 集団の生活を通しての規範意識や道徳性の芽生え
- ◇ 生活や遊びの中で育つ好奇心や探究心、思考力の芽生え
- ◇ 言葉や表現を通しての伝え合いの基礎
- ◇ 遊びを通して体を動かす気持ちよさの体験

ポイント2 幼稚園と家庭や地域社会との連携を踏まえた指導の充実を図る。

- 学校評価等を活用し、保護者の幼児期の教育に関する理解が深まるようにする。
- 地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫する。

ポイント3 安全に関する指導の充実を図る。

- 幼児の発達段階や地域の実態を考慮して計画を作成し指導に当たるように工夫する。
- 日頃から様々な機会をとらえて**安全**(防災や放射線に関することも含め)に関する理解が深まるようにする。